



Japan-Taiwan Dialysis Symposium

第2回 日本-台湾 透析シンポジウム

開催日：2012年11月10日(土)

場 所：林口長庚紀念醫院 (Chang Gung Memorial Hospital, Linkou)

主 催：長庚大学医学部腎臓内科グループ(台湾)、医療法人社団 松和会

医療法人社団 松和会では、2009年より台湾の長庚大学(Chang Gung University)の腎臓内科グループと定期的に透析シンポジウムを企画・開催しております。両国の透析医療に従事している医師・看護師・臨床工学技士などのスタッフが、異なる医療制度の基で行っている透析医療の現状や問題点を報告し合っ

て意見交換を行い、各々の職場でその経験を生かしていくことを目的とするものです。今回で2回目となりますが、長庚大学医学部部長である楊智偉(CHIH-WEI YANG)教授と当会の黒川清理事長との主催で、学術アドバイザーとして順天堂大学医学部の富野康日己教授をお迎えして、長庚大学医学部付属病院の一つである林口長庚紀念病院にて『2012年 日本-台湾 透析シンポジウム』を開催しました。

このシンポジウムでは、それぞれの国の現場スタッフ同士が日頃の業務内容を分析・整理し、その内容を英語で発表します。その後の質疑応答では活発な意見交換が行われ、予定時間がオーバーするほどの白熱した議論が行われました。両国スタッフにとって非常に有意義なシンポジウムでした。

また、当会スタッフにおいては、シンポジウムとその後の透析施設見学などを通じて他国の透析事情を直接に見聞きすることができ、大いに刺激を受けました。

次回は、長庚大学腎臓内科グループのスタッフを日本にお迎えして開催する予定です。

【長庚大学(Chang Gung University)について】

長庚大学は、台湾桃園県に本部を置く台湾の私立大学で医科大学を前身としており、医学部・工学部・管理学部などを有する総合大学で、施設設備が非常に充実しています。2010年度世界大学ランキングにおいて、台湾内では第5位と多くの国立大学を凌いでいます。

また、グループでは長庚科技大学(Chang Gung University of Science and Technology)も設立しており、看護学科や情報管理学科などを設置しています。

今回の会場である林口長庚紀念病院は、医学部付属病院の一つであり、45,000坪の広大な土地に医学・病理・研究・教育棟を持ち、病床数は3,715床の大規模医療施設です。

【シンポジウム演題】

- | | |
|---------|-------------------------------------|
| 演題1(日本) | 東日本大震災からの報告
～高層階透析室の被害状況から学んだこと～ |
| 演題2(日本) | 汎用ソフトを使用した透析医療情報データベース構築の取り組み |
| 演題3(日本) | クラウド型透析医療情報管理システム構築の試み |
| 演題4(台湾) | 透析センターにおける情報管理システムについて |
| 演題5(日本) | 長期留置カテーテルの有用性とケアについて |
| 演題6(台湾) | 透析液の品質管理について |
| 演題7(台湾) | 透析センターにおける透析看護記録方法の改善について |
| 演題8(台湾) | 台湾の透析医療保険制度について |
| 演題9(日本) | 日本の透析医療保険制度について |

【シンポジウム風景】



院内はどこも綺麗に装飾され歓迎ムード一色（写真 左）
会場も院内（地下2階）にあるとは思えない立派な会場でした（写真 右）



現地時間で8時45分 日本-台湾 透析シンポジウム開演



1演題 約20分、その後質疑応答が10分ほど。トラブルも無く終始順調な進行（写真 左）
発表が終わった直後から、多くのご質問を頂きました（写真 中）
発表者は長庚記念病院の院長より記念品を頂きました（写真 右）



松和会約30名、長庚記念病院約30名のスタッフ その他多くの現地聴講者に
囲まれ、素晴らしいシンポジウムでした（写真 左）
最後はバスが見えなくなるまでお見送りをして頂きました（写真 右）



気になる記念品は陶器のお茶セット
さすがはお茶の国、日本で有難く使わせて頂きます。

暖かく迎えてくださった長庚記念病院の皆さま
本当にありがとうございました。

謝謝！！